



The Plot Thickens



**トランプ大ピンチ！
ウクライナ疑惑で弾劾裁判ほぼ不可避
民主党候補の元検事カマラ・ハリスが追及**

2020年の大統領選を前に、トランプ大統領に衝撃的な疑惑が浮上している。ロシアとの軋轢あつれきなどにより情勢不安が続く東欧の大国、ウクライナの大統領に、軍事支援と引き換えに、民主党の大統領選候補バイデン氏と同氏の息子が同国の企業で汚職をはたらいた疑いの捜査再開を求めたという疑惑だ。選挙戦のために国の安全保障を利用したというこの大スキャンダルを、元検事の大統領選立候補者カマラ・ハリス氏が刑事司法の観点から徹底解剖。



番組ホスト

アンダーソン・クーバー

1992年、教育向けニュース・チャンネル、Channel Oneでキャリアをスタート。95年、28歳のとき、最年少特派員としてABCと契約。その後、同局の「ワールド・ニュース・ナウ」などの看板番組のアンカーを務める。2001年12月、CNNに入局。05年、ピーブル誌が選ぶ「セクシーで頭の切れる男性」の1人に選ばれる。1967年生まれ、ニューヨーク育ち。

ゲスト

カマラ・ハリス

民主党所属カリフォルニア州選出の上院議員。地方検事を経て、2011年、女性として、また、アフリカ系およびアジア系として初めてカリフォルニア州司法長官に就任し、刑事司法制度改革などに注力。2017年より現職。オバマ前大統領と同じく連邦議員1期目で大統領選に立候補。ジャマイカ人の父とインド人の母を持つ。1964年生まれ。



74 大統領選対策のためにウクライナ政府と「取引」か



Anderson Cooper Good evening. We begin tonight with breaking news: more damaging testimony in the Ukraine affair, another indication of how badly President Trump's personal attorney wanted to obtain dirt on the president's political rivals. The news follows two weeks of other testimony that, taken together, lays out the parts and pieces of what is a wide-ranging, sustained, intensive campaign to get a foreign government to do the president's personal political bidding in exchange for badly needed military assistance.

And, of course, this comes at the end of a day of damage control after the president's own acting chief of staff conceded yesterday that, yes, there was a quid pro quo with Ukraine.

The plot thickens.:
《タイトル》事態が複雑になってきた
damaging:
損害を与える、不利な
testimony:
証言
affair:
事件
indication:
印、兆候、証拠
personal attorney:
個人弁護士
dirt on:
～の不祥事などの証拠となる情報
political rival:
政敵
(when) taken together:
総合すると、まとめて考えると
lay out:
～を明確に説明する
wide-ranging:
多岐にわたる、広範囲の
sustained:
長期間続く、持続した
intensive:
集中的な、精力的な
campaign:
組織的運動、作戦
do someone's bidding:
～の言いなりになる、言いつけ通りにする
in exchange for:
～と引き換えに、～の見返りに
military assistance:
軍事支援
damage control:
被害対策、被害の歯止め
acting chief of staff:
首席補佐官代行
concede that:
～ということを認める
quid pro quo:
交換、交換条件、見返り

アンダーソン・クーバー こんにちは。今夜はまず、今入って来たニュースからお伝えします。ウクライナ疑惑に関して、(トランプ大統領にとって)さらに不利になる証言です。トランプ大統領の個人弁護士が、大統領の政敵(ジョー・バイデン氏ら)の不祥事の証拠となる情報をいかに必死で入手しようとしていたかをさらに示すものです。このニュースは、2週間にわたる他の証言に続くものです。それらの証言を総合すると、広範囲にわたり、長期間、精力的に行われていた、外国政府がどうしても必要とする軍事支援と引き換えに大統領個人の政治的要求をのませるといった組織的工作の細部が明らかになりました。

そして、言うまでもなく、このニュースが入ってきたのは(ホワイトハウスが)火消しに追われた一日の終わりでした。というのも、昨日、大統領自身が指名した首席補佐官代行(ミック・マルバニー)も、そう、ウクライナとは(バイデン氏に関する調査を開始する見返りに軍事支援を行うという)交換条件があったと認めたからです。